



論文要旨 Dissertation Abstract

令和 3年 1月 13日

Date (YY/MM/DD):

専攻 Major 環境リスクマネジメント専攻	学籍番号 Student ID 13TF001	氏名 Name 小杉樹彦
論文題目 Dissertation Title	大学入学者選抜におけるアドミッション・ポリシーと志願者のミスマッチングに関する研究	
<p>高等学校及び大学の教育改革が進む中で、入学者選抜の基本理念は大きく転換しつつある。具体的には、従来の入試の主目的であった「選抜」から、大学と志願者における「マッチング」の段階へと移行している。</p> <p>大学は、教育理念、教育目的、教育課程の特色に応じた多様で確固とした特色ある入学者受入れ方針、すなわち、アドミッション・ポリシー（以下、AP）の確立を目指し、入学者選抜方法もこれに沿って設計し、学生を絞り込むのではなく、求める学生を見出すことが求められている。同時に、志願者は大学から選ばれるのではなく、大学（学部・学科）の教育の理念や特色に沿った AP に応じて、大学を主体的に選択することが求められている。</p> <p>ここで両者の間にマッチング、ミスマッチングが生じ、そこには不確実性が存在することになる。本研究では、それらをリスクと捉え、より良いマッチングに向けたアプローチが必要であると考えている。</p> <p>大学と志願者のマッチングについては、これまでも独自のメカニズムを構築している大学もあるが、教育改革が進む中で、成績等とは異なり、点数化が困難な素養や総合力の評価、求める学生像との一致等、評価基準に変化が見られる。こうしたことから、マッチングにおいても新たな切り口が必要となると考えた。</p> <p>本研究では、AP が政策に取り入れられた過程を主に大学入試の変遷に沿って書き記した後、入試の要となる AP と志願者とのマッチングに向けて、それぞれがそのプロセスで抱える現状の課題を整理する。それらをもとに、フレーム化と一般事例における有効性の検証を行い、解決に向けた提案を取りまとめる。</p> <p>尚、本論文は次の通り、全 6 章構成となっている。まず、第 1 章では、序論として、研究目的やその前提となる主要な用語の定義等について述べる。</p> <p>次に、第 2 章では、大学入試の変遷として、AP に関連した出来事を軸に、これまでの我が国における大学入試の政策的変遷を年表とともにまとめる。</p> <p>そして、第 3 章では、SWOT 分析フレームを用いて、これまでの大学入試、すなわち、</p>		

「選抜入試」と、現在の大学入試、すなわち、「マッチング入試」について詳細分析を行い、両者の特徴の違いを整理する。さらに、TOWS 分析フレームを用いて、マッチングを大学、志願者それぞれの目的に対するリスクと捉え、今後の大学入学者選抜の目指すべき方向性について詳細分析を行う。

第 4 章では、AP の前提となる基本情報の整理を行った上で、中央教育審議会答申『初等中等教育との接続の改善について』を中心として、AP と志願者それぞれのマッチングプロセスにおける先行研究課題について体系化する。

第 5 章では、第 4 章と同様の手順で、現場でのヒアリングによって収集した一般事例を基に AP と志願者それぞれのマッチングプロセスにおける課題体系化する。

最後に、第 6 章では、第 4 章、第 5 章で示したツリーから一般化に向けて、展開し、対策系の一例を示す。加えて、今後の展望についても触れていく。

キーワード

1. 大学入学者選抜
2. アドミッション・ポリシー
3. マッチング
4. ミスマッチング
5. リスクマネジメント

(続葉) (Continued)

4000 字以内 (Within 4000 words in Japanese, or 2000 words in English)